

大原あかね様 講演要旨

・大原家の御紹介：

孫三郎氏が有名かもしれないが、孫三郎氏だけが活躍したわけではない — 継続した社会貢献があった。継続が重要。

また、若い人の意見を聞ける土地ということも、社会貢献が実現した背景にあったのではないか。

・現場を見ることの重要性：

「苦難」の実態は肌で感じなければわからない——

紡績工場における女工哀史的状况の実見が、労働科学研究所の設立等へつながる

・課題に対応することは、実は企業業績の向上 にもなる

・目の前の課題だけに対応するというだけでは、また同じことが起こってしまう。
なので深みのある学問としての対応が必要と考えて、研究所を作った。

・実益のみではない。

子育ての社会化は、女性労働の場の確保につながる

研究所・病院設立当時、大金を使って、Darwin, Harvey などの初版本、あるいは和書漢籍の重要本も入手し、いまだに文庫に収められている。これは教育目的であった。

また大原美術館も、そもそもは若い芸術家への教育の目的で作った。

→直接、実績・利益にはつながらない。けれど、それがあつて思考・発想の幅が広がる。各種貴重書や倉敷中央病院の温室はそのような効果があつたと思われる。

→この余白とも言えるものが「文化」の一つの形である。

→そして、この「文化」は岡山の地に根差していたものに違いない。

・目の前の利益を追求するのではない：

「文化は、ないと困るもの、だが役には立たないもの」

役に立つものにしたとたん、手段になってしまう。

・岡山大学の SDGs の 18 番目には文化がくるのではないだろうか。岡山の土地が風が育んだ土地の DNA に刻まれた「文化」が加わることで岡山大学ならではの、岡山大学でしかできない SDGs となると考える。